様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 30 日現在

機関番号：34416
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008 ～ 2011
課題番号：20520264
研究課題名（和文）
ホーソーン文学における歴史と詩学の位相――独立期アメリカの精神と文化の表象を読む
研究課題名（英文）
History and Poetry in the Works of Nathaniel Hawthorne
研究代表者：入子　文子（IRIKO FUMIKO）
関西大学・文学部・教授
研究者番号：80151695

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：英米・英語圏文学
キーワード：米文学

１．研究計画の概要

(1) 本研究はホーソーンの文学テクストに現れた、独立戦争を中心として形成された広義の独立期アメリカの精神と文化の表象を、従来の表象研究をさらに進展させた視点――新歴史主義的史学と詩学の手法を融合させる視点――で読み、ホーソーン研究にあらたな批評方法＜新しい詩学＞を構築することを目的とする総合的研究である。

(2) 本研究は批評の昨今の動きとも連動する。我が国の内外におびただしいイデオロギー批評を生み出した文学研究での新歴史主義の旗手たちは、ミレニアムを機に古典や美の価値、文学の伝統、作者の復活を主張して、行き過ぎた新歴史主義に歯止めをかけた。本研究はこの新たな方向へとホーソーン研究を活性化する一つの企てである。

２．研究の進捗状況

独立期を背景にする未完の断片的長編や、歴史の断片を重ねるスケッチやエッセイが批評の俎上に上ることは稀である。一定の概念や考え方の表出を期待して読み始める読者は、一見無秩序な歴史記述を前にしてホーソーンの思考の流れを読み取ることを断念するからである。国家の運命にかかわる公的主題を扱いながら、戦場に対して詩情を育む場と考えるホーソーンの、文学者としての個性的想像力の在り方をどう理解するのか。この難問の解決に向けて、これら扱いの難しいジャンルの作品である『英国ノート』、「ある鐘の伝記」、『アメリカ有用娯楽教養雑誌』などを分析した。その際、鐘、要塞、衣装、記念碑といった表象の図像学的解釈を盛り込んで、芸術としてのホーソーン文学が持つ詩的想像力に注目し、歴史と融合させてホーソーンの戦争観、英雄観を読み取ろうとした。文献の収集・精読とあわせて古戦場に赴き地勢の確認に努めた。

その研究成果は次のとおりである。『アメリカ研究』の「ホーソーンの＜ジョージ・ワシントン＞」では「自筆書簡集」に見られるジョージ・ワシントンの謎めいた描写を読み解くため、フランスのヴィニーの『軍隊の服従と偉大』や、イギリスの『コリングウッド書簡集』、アメリカのダンラップの『アメリカ芸術発展史』、スパークスの『ワシントンの生涯』それに『アメリカ教養娯楽雑誌』などを援用した。シンポジウムを組織し、それを発展させた共編著『独立の時代』では、「ある鐘の伝記」の、ラール神父と鐘をめぐるホーソーンの史学と詩学の複雑な交錯を分析した。同じくシンポジウムから発展させた編著『英米文学と戦争の断層』では主として『英国ノート』の分析から英国軍人ウルフへのオマージュを読み取り、「追憶の中のウルフ」を執筆した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

＜理由＞研究を進めるうちに、これまでほとんど研究されていない北アメリカにおける英仏間戦争へのホーソーンの関心に強く興味を惹かれ、関連するホーソーン作品と歴史的背景の膨大な文献精読に重点を置くようになった。そのため晩年の未完の作品への精査が残ってしまった。一見達成度が不足するかに見えるが、研究にはこのようなことが起こりがちである。英仏間戦争のテーマを中途

半端にせず、深めていくことを重要と考えている。

４．今後の研究の推進方策

北アメリカの英仏間戦争の研究をさらに進めていくと＜独立期＞の問題が過去に遡り、＜長い独立期＞という考えに至る。そこでホーソーン研究における＜長い独立期＞という新たな方向で、特に女性の問題を中心に模索する。その際、北アメリカの植民地における英仏関係から出発するがそれにとどまらず、ヨーロッパを巻き込んだ史学と詩学の融合をめざす研究となるであろう。手始めに2011年6月、関西シェイクスピア研究会での口頭発表が決まっている。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

①入子文子、「ホーソーンの＜ジョージ・ワシントン＞」『アメリカ研究』43 : 1-21. 2009.

〔学会発表〕（計２件）

① 入子文子、「ホーソーンの戦争観」関西大学英文学会シンポジウム「英米文学と戦争」司会・講師、2008年12月、関西大学

② 入子文子、「ホーソーンの＜みた＞二つのイングランド――『英国ノート』を中心に」、日本ヴィクトリア朝文化研究学会全国大会、特別研究発表、2008年11月

〔図書〕（計３件）

① 入子文子、「ホーソーンと追憶の中のウルフ――『英国ノート』を中心に」、『英米文学と戦争の断層』、入子文子編著、関西大学出版部、2011年、総ページ数294頁、73-111頁

② 入子文子、「ホーソーンの＜みた＞二つのイングランド――蔦をめぐる瞑想」『メディアと文学が表象するアメリカ』、山下昇編著、英宝社、2009年、総ページ数394頁、29-55頁

③ 入子文子、「『ある鐘の伝記』を読む――ホーソーンにおける歴史と詩学の交錯」、『独立の時代――アメリカ古典文学は語る』、入子文子編著、世界思想社、2009、総ページ数248頁、111-148頁